

科目名	仏教カウンセリング					単位	2.0
担当教員	目幸 黙僊						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	1	授業番号	

●授業のテーマ

仏教カウンセリング

●到達目標

仏教の人間観・世界観、智慧即慈悲の立場から、仏教カウンセリングを論究することによって、グローバル時代（global age）における意味のあるいのちのあり方・生き方（meaningful way of life）を目標とする。

●学習内容（授業概要）

カウンセリングの基底にある人間観の問題、更に生命観の理解を、カウンセリング理論、特にユング分析心理学との対比を通して深め、併せて現今の人間のこころの問題をも取り上げて、具体的に論究を試みる。

●学習内容（授業計画）

- I. 人間観は、何れのカウンセリング理論の根底にある
  1. 仏教の人間観はブッダの菩提樹下での成道体験が原点である
  2. 成道体験は仏弟子にもみられ、それはヌミノーズム（numinosum【神的】）の体験である
  3. ヌミノーズム（神的）の体験は、いのちの体験であり、人格の変容をもたらす
- II. 仏道としての仏法
  4. 仏教教義は、成道体験に基く体験行実の言語的表詮である
  5. 重要教義として、中道四諦、八正道、三法印、縁起、無我、四無量心（慈・悲・喜・捨）などがあげられる
  6. 教義は仏道修習（bhavana）・三学として伝承されてきている
- III. 方法論について
  7. 修習、即ち実践体験の理解には、それに適切な方法論が必要である
  8. 体験の理解に適切な方法論として、ユングの心的現象論を紹介する
  9. 自我（ego, 意識）と非自我（non-ego, 無意識）の考えを中心にして、成道体験の理解を試みる
  10. 成道体験は、ユングの仮説、個性化・自己実現の働きの過程と対比される
  11. 人間意識の創造性は、いのちの創造性・尊厳性でもある
- IV. 創造神話について
  12. 意識・いのちの創造性は、各文化にみられる創造神話に語られている
  13. 旧約聖書の「創世紀」と印度の「ヴェーダ聖典」の創造賛歌を対比考察する
  14. 仏教の「蛇喩経」と「二河白道」を意識の目覚め、創造性の表現として理解する
  15. 夫々の文化における至高価値、及び人間観・世界観が、これらの神話や賛歌、説話に表現されていることを認識し、意識・いのちの尊厳性の理解を深める

●準備学習・事後学習の内容

授業の関連項目を事前に調べ、必ず予習しておくこと。講義内容については事後に必ずノートを整理すること。

●成績評価方法・基準

出席(40%)、クラスにおける態度(10%)、宿題の提出(10%)、討論参加(10%)、及び試験【論文作成】(30%)

●テキスト(必携)

≪No.1.≫書籍名:『動く仏教・実践する仏教』、著者名:同朋大学大学院文学研究科編

≪No.2.≫書籍名:『宗教とユング心理学／個性化について』(The Sanno Clinical Series)

≪No.3.≫書籍名:『こころの時代』、著者名:目幸 黙僊・水谷 幸正、出版社:仏教大学通信教育部、備考:  
☆学務課で集中講義時に貸し出し

必要な教材のプリント(クラスで配布)

●参考文献／その他

河合 隼雄『心理療法序説』(岩波書店)

河合 隼雄『ユング心理学と仏教』(岩波書店)

J. M. スピーゲルマン・目幸 黙僊『仏教とユング心理学』(春秋社)

●履修上の注意

仏教カウンセリングⅠとⅡはセットで履修すること。単独履修は認めません。